

○ もっとも「よい」と考える流れを考え、次の四つの文章を並べ替えよう。また、次のページに理由を書こう。

既定従約帰趙、肅侯封為武安君。（合従の取り決めを完了させて、趙へ帰った。肅侯は蘇秦に土地を与えて武安君とした。）

蘇秦者、師鬼谷先生。初出游、困而帰。妻不下機、嫂不為炊。（蘇秦は鬼谷先生に師事した。はじめ故郷を出て遊説したが困窮して帰ってきた。妻は機織り台から下りようともせず、兄嫁は食事を作ろうとしなかった。）

秦人恐喝諸侯、求割地。有洛陽人蘇秦。游説秦恵王、不用。乃往説燕文侯、与趙従親。燕資之、以至趙。説肅侯曰、「諸侯之卒、十倍於秦。并力西向、秦必破矣。為大王計、莫若六国 従親以擯秦。」肅侯乃資之、以約諸侯。蘇秦以鄙諺説諸侯曰、「寧為鶏口、無為牛後。」於是六国従合。

（秦の国が諸侯を恫喝して領地を割譲することを求めた。洛陽の人に蘇秦という人がおり、秦の恵王に策を説いたが採用されなかった。そこで燕の文侯に趙と同盟するように勧めた。燕は蘇秦に資金を与えて趙に行かせた。肅侯に次のように言った。「諸侯の兵は秦の十倍もあります。協力して西の秦に立ち向かえば秦は必ず敗北します。大王のために計画をするとして、六つの国が同盟して秦を退けるのが最上かと存じます。」肅侯は資金を出し、諸侯と盟約を結ばせるようにした。蘇秦がことわざを使って諸侯を説得して言った。「鶏の口になってもよいが、牛の尻にはなってはいいません。」そこで六国は連盟することとなった。）

至是為従約長、并相六国。行過洛陽。車騎輜重、擬於王者。昆弟妻嫂、側目不敢視。俯伏、侍取食。蘇秦笑曰、「何前倨而後恭也。」嫂曰、「見季子位高金多也。」秦喟然歎曰、「此一人之身。富貴則親戚畏懼之、貧賤則輕易之。況衆人乎。使我有洛陽負郭田二頃、豈能佩六国相印乎。」於是、散千金、以賜宗族朋友。（連盟が成立するにいたって、連盟の最高指導者となった。途中、洛陽を通り過ぎた。馬車や騎兵、荷物を載せた車の行列は王侯かとみまがうほどだった。兄弟や妻、兄嫁たちは目をそらしてまともに見ようとしなない。伏せた状態で、つきっきりで食事の世話をした。蘇秦は笑って言った。「どうして以前は威張っていたのに、今日はこんなに丁寧なのですか。」兄嫁が言った。「あなたが身分も高くお金持ちでありますので。」蘇秦はためいきをついて言った。「同じ身であることに変わりはない。富や地位があれば親戚でも畏れはばかり、貧しく地位が低ければ軽んじられる。ましてあかの他人であればなおさらだ。私がもし洛陽に二頃の肥えた田畑を有していたら、どうして六国宰相の印を身に帯びることができただろうか。」そこで莫大な金を一族や友人に分け与えた。）

○前のページのように並べ替えた理由を書こう。

※理由として書くべきポイント例

語の使い方、句法などの文法的な要素、
文章内容のつながり、読者への伝わり方の違い
など

※前のページの本文について、ポイントとなるところの
文字色を変えたり、線を引いたりしてもかまいません。

(理由)